

向学館通信

2006・5・27

学校のテスト結果を提出してください。
定期テストや臨時のテストなどが終わったら、問題と答えを持ってきてください。学習計画を考える資料として必要です。
点数が悪かったので見せたくないと思わないで、自分の弱点を克服するようにしましょう。

鉛筆の持ち方がおかしい子は、改めましょう

先日、大阪で、多くの塾の先生方が集まる会合があり、私も出席しました。そこで、兵庫の塾の先生の報告のなかに、鉛筆の持ち方を指導し、直しているという話がありました。その先生は、鉛筆の持ち方などどうでもいいと言ってすませられない、大きな問題だと言っておられました。実際、持ち方を直したために、成績までよくなったという話がありました。

また、最近の新聞でもこの問題が取り上げられていました〔3月29日の『朝日』、5月23日の『産経』など〕。いずれも、鉛筆の持ち方が悪いと、姿勢が悪くなる、長く続けられない、字がきたなくなる、字がきれいに書けないために勉強が嫌いになる、等々の「症状」が生じやすいと指摘されています。

そこで、当塾でも、鉛筆の正しい持ち方の指導を行うことにしました。矯正器具を使って直していく方法です。いま、三種類ほどの器具を取り寄せて、検討しているところです。

何人かの子どもたちは、なんらかの点で「おかしな持ち方」です。とくに小さい子で、持ち方を改めるほうがよいと思う生徒には直接、改めるように指導していきます。長い目で見ると、必ず利点のはっきりしてくると思いますので、ご了解をお願いします。（器具代は300円前後ですので、使用した場合は授業料の請求のときにいっしょに請求させていただきます）。

「論理エンジン」の有効性があらわれ始める

昨年秋から、国語の教材として「論理エンジン」を採用しました。早い人では、すでに4冊目の「レベル31～40」に入っています。

1冊目は、主語・述語の関係や、修飾語・被修飾語、などの基本的なことを学びます。2冊目では、国語文法を学校で習うよりもハイレベルなところまで、繰り返しやります。ここで、後に必要となる英語文法のための「地ならし」の役目を果たしていると思います。現に、これをやったために、英語文法がそれほど苦にならないという人が、何人か出てきました。これも大きな利点です。

3冊目では、いわゆる「読解力」の問題が中心です。この読解力も、要約する力や、論理的なことを図式的に明確化する方法や、比較や対立で論旨を展開する方法など、長い文ではなく、短い文のなかで論理を追っていく訓練を繰り返します。

4冊目からは、かなり高度な内容の文章になります。本格的なトレーニングという段階です。

以上のような内容で学習が進んでいきますが、3冊目を終わるところから、実力がついたなあ、と自覚できるようになると思います。実際、学校での国語のテストがすごく簡単に思えてきた、という人が何人も出てきました。

また、国語のテストだけでなく、他の科目の参考書を読むのにも、理解しやすくなったという人もいます。改めて「論理エンジン」を採用してよかったと思っています。

学校のテスト対策をもっと徹底します

いま、学校によって、2学期制のところや3学期制のところなどがあり、テストの時期も以前のようにほぼ揃っているという状況ではなくなりました。なかには、2学期制になって小テストの回数が増えているところもあります。

小さなテストも、事前に塾に報告してください。テスト対策をこちらでしますから、親御さんからも、テスト予定を知らせてください。

勉強をしたくない生徒は、自分からテストの予定を言わないこともありますので、要注意。